

## 第630回

# 九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2021年2月度 ——

- ◇ 開催日  
2021年2月15日(月)
- ◇ 議題  
＜ラジオ番組＞  
「ミヤリサン製薬 ラジオ劇場 下町ロケット」  
放送内容：第9話～13話（約70分）
- ◇ その他

「新型コロナウイルス」感染拡大による緊急事態宣言の延長を受け、  
委員長以外の委員はWEBのテレビ会議システムを利用したリモート参加とした

九州朝日放送株式会社

## 第630回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2021年2月15日(月)午後3時30分～4時40分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社役員会議室

及び「新型コロナウイルス」感染拡大による緊急事態宣言の延長を受け、  
委員長以外の委員はWEBのテレビ会議システムを利用したリモート参加

### 3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 7名

委員長	戸田 康一郎
委員	守田 有理子
委員	石橋 和幸
委員	藤村 まこと
委員	山崎 靖
委員	中山 裕二
委員	石井 靖子

欠席委員数 1名 (レポート代読)

### 放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和 氣 靖
常務取締役	笹 栗 哲 朗
総合編成局長兼ラジオ局長	坂 井 剛
報道情報局長	柴 田 高 宏
ラジオ局 ラジオ編成制作部長	渡 辺 浩 司
ラジオ局 ラジオ営業業務部 番組プロデューサー	原 田 昌 史
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	石 橋 聡
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松 永 俊 郎

#### 4. 議題

- (1) ラジオ番組「ミヤリサン製菓 ラジオ劇場 下町ロケット」  
放送内容：第9話～13話（約70分）
- (2) 2月・3月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 1月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

#### 5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 「下町ロケット」はテレビドラマの印象が強い。特に主人公の佃航平についてはどのように表現されるのか期待と不安を抱きながら聴取したが、途中で止められなくなり一気に最後まで聴くことができた。ラジオドラマとしてしっかり楽しめた。
- 映像がないラジオドラマは聴取者にいかにして作品のイメージを想起させるかが問われる。原作の面白さに加え、出演者の演技力や効果的な音づくりが重要になるが、本作はそれが大変良く出来ていたと思う。聴きごたえのあるラジオドラマだった。
- 聴取前は、映像がないラジオドラマは退屈ではないかと思ったが、それぞれの登場人物が、場面や感情を上手に表現しており、どんどん物語に引き込まれるような感じがした。改めて想像力が掻き立てられるラジオドラマのよさを知ることができた。
- 主演の黒木啓司さんの落ち着いた雰囲気からは、熱情を胸に秘めた佃航平そのものの雰囲気が伝わった。淡々と演じているような黒木さんはラジオドラマ向きだと感じ、  
「下町ロケット」の原作の佃航平のイメージにより近いという印象を受けた。
- 野島裕史さんのナレーションは朗読とも違うストーリーテラー的な要素を担っていて、テレビとは異なるドラマティックさの演出に一役かっていた。ラジオドラマで登場人物が多いとセリフが混乱するが、野島さんのナレーションによりストレスなく聴けた。
- ラジオは、「音」「声」「間」だけの表現になり、演出が難しいだろうが、高揚感のあるテーマ音楽や物語の中で流れるBGMは、聴いている人にわくわく感やドキドキ感といった感情の高ぶりをもたらすことに寄与していた。
- （コロナ禍で）「かつてない事態に直面した今だからこそ、技術やもの作りの大事さ、夢をあきらめないことの大切さなどの価値観の重要性を世の中に訴えたい」という意図から、話題を博した「下町ロケット」をラジオドラマ化したことは素晴らしい試みだ。
- 先日（2月13日）は東北で（東日本大震災の）余震のニュースがあった。被災時にアプリで聴けるラジオの重要性を再認識させられたばかり。インターネットラジオ（radiko）や audiobook.jp での配信は、成長市場を意識した将来性のある取り組みだと感じた。

などの評価を頂きました。

また、気になる点や望むこととして、

- 週一回 15 分の放送で内容を記憶して、物語の前後の文脈を理解するのは難しいのではないか。前回までの内容を知らず、途中から聴いたり、数話を聴きそびれた人は少し困るのではないかと思った。
- 一話 15 分という長さはちょうどいいと思ったが、週一回の放送では物足りないのではないか。「下町ロケット」の小説を読んだことがない人、テレビドラマを見たことがない人にはとっつきにくいのではないかと思った。
- プロの声優である保村真さん（殿村直弘役）や榎あづささん（和泉沙耶役）は、感情や情景がずっと入ってくるが、主演の佃航平役を演じる黒木さんはパフォーマー。声だけで表現するという点においては、少し物足りなさを感じた。
- 従来、あまり馴染みがない世代にラジオを聴いてほしいという気持ちは理解できるが、こうしたラジオドラマはやはり早朝に近所を散歩しているような世代に喜ばれる。audiobook.jp のような聴き方が広がり、ラジオドラマのよさが再認識され、スポンサーが付き、いい番組が作られる、という好循環が生まれることを期待している。  
などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 週一回 15 分の放送について「もう少し放送回数を増やしてみてもどうか」とのご意見もあったが、クオリティを維持するには、週一回 15 分の放送が限界だ。逆に、高いクオリティを維持するために、週一回 15 分に設定している側面もある。
- 「技術やもの作りの大事さ、夢をあきらめないことの大切さなどの価値観の重要性を世の中に訴えたい」というスポンサーの意向に加え、「下町ロケット」というビッグタイトルに対し、制作者として、前々から挑戦したいという思いがあった。
- 「下町ロケット」はラジオやテレビで既に 3 回番組化されており、それらとどう作り分けるかをまず考えた。その結果、既出の作品が持つイメージは意識せずに、KBC ならではの「下町ロケット」を描くべく制作に当たることにした。
- 「黒木さんの演技には物足りなさを感じた」というご意見もあったが、原作の魅力をどう音に置き換えていくかを重視している。黒木さんにはあまりハイテンションな演技を求めておらず、むしろ自然な演技は狙い通りだと思っている。「物足りなかった」というご指摘は今後の番組制作に役立てたい。
- ラジオドラマの演出で重要な「効果音」は、基本的にオリジナルで収録したものを使用している。例えば、物語の後半で製造工場の場面なども出てくるが、実際の工場では「音」を収録し、よりリアルな効果音にできるよう準備を進めている。
- ラジオ放送に限らず、audiobook.jp などを用いた総合的な展開を目指している。こうした取り組みにより一度に若年層を取り込めるとは考えていないが、地道な努力を続けていく方針だ。リアルタイムの放送を聴いてもらえなくとも、何らかの形で番組を聴き、「ラジオって面白い」と思ってもらえるきっかけになればいいと考えている。

などの説明をしました。